

<収録作品>

<お断り> 本作品の製品名は「インディスティンクト+Q 第15話～第17話」となっておりますが制作の都合上、「インディスティンクト+Q」シリーズ以外の作品も多数含まれております。

また、体験版で閲覧できるのは収録作品の一部のみです。

<「インディスティンクト+Q」シリーズ>

・ 第15話 十字線の失敗

52歳の男性は息子が会社の飲み会で度重なる暴力に晒された。やがて精神を蝕まれ、自ら命を絶つことになった。

会社側や警察の対応に納得ができない上、労災認定も認められなかったことで自分で加害者への報復を考えるが、成功できる自信がない。そこへ男性の妻がある程度はマシな方法が、と…

本編約19ページ。

・ 第16話 わが家が狙われて

42歳の男性は自分の妻と二人の息子、そして自分の両親と住んでいる。

男性の自宅に銃弾が撃ち込まれた。男性の母親は思うところがあり、警察と話をするが…

本編約10ページ

・ 第17話 バッシング 対 作業員認定

2007年、梅雨の時期が近づくころ。24歳の女性は大学卒業後ある会社に就職したが、体に無理をさせるほどの長時間労働からすでに辞めている。

X社というニュース配信会社がネットで配信したニュースでは、別の会社の大手企業の社長が、最近の若者は忍耐力が無いから入った会社をすぐ辞めると語っていた。そのニュースを見た女性は…

本編約26ページ。

<その他の作品>

・ 帰るまでが大会です

ある高校のバスケットボール部は男女とも大会で強豪校とされる相手に勝利。27歳の高校の女性教諭は女子バスケ部の顧問。

帰り道、利用予定の高速道路で事故による通行止め箇所が発生。そして高速道路上では自分たちが乗ったマイクロバスの後ろでは強豪校のマイクロバスが車間距離を詰めるように…

本編約16ページ。

・ 救済条例 享年28歳

2005年、X県である条例が成立。X県で発生した人権侵害者の救済、差別的な出来事の発生防止と被害からの迅速な回復を目的としている。

しかし県外まで巻き添えを喰らいかねない大きな問題点を抱えたままで、2006年の春と夏の境目に施行しようとしている。

X県から遠く離れた所に住む28歳の男性は後に、29歳の誕生日を迎えられそうにないことを念頭に置き、日本全国が救われることを信じての行動を考えるようになる。

本編約25ページ、あとがき約1ページ。

- ・ 古い国家論と思われて

72歳の男性は国家論について文章を書いたり活動をしてきた。国家論に関する書物が売れるようになり、自分の文章をよく載せてもらっているある雑誌も恩恵を受けたが…

本編約7ページ。

- ・ 探っている者の正体

41歳の男性はある高校の陸上部の外部指導者のコーチ。大会が開かれているスポーツ施設で、ある女子部員に強くこう言った。

「薬、あるんだろう。どうしてもだめならもっと——」

その言葉が自分自身にのしかかり、やがて「アイツ」を探そうとスポーツ施設の体育館に向かう。

本編約12ページ